

帝政ロシアのアジア認識と韓人(1891-1910)¹

崔憲圭（チェ・ドッキュ、東北亜歴史財団）

要約

帝政ロシアのアジア認識と韓人移住者に対する政策にはアジアに対する相反する認識が投影されている。クリミア戦争において英仏連合軍に敗北したツァー政府はこの戦争を通してロシアとスラブ民族に対するヨーロッパの本能的な敵対心を体験し、ロシア知識人の間にヨーロッパとロシアとの関係についての反省が起きた。これはスラブ主義と西欧主義という二大思想の登場に帰結した。前者がロシアとヨーロッパの差異に注目しロシアの特殊性と個別性を協調する一方、後者はロシアをヨーロッパの一員と看做し歴史・文化的な同質性を探し求め、これを追求する傾向が強かった。

スラブ主義の代表的思想家の一人であったダニレフスキーはアジアを「退歩」、ヨーロッパを「進歩」のイメージで見るヨーロッパ中心主義的見方を批判し、アジア文明に対する公正な評価を試みた。これは露領地域に移住してくる初期の韓人移住者に対する温情主義となって表れ、実際に韓人移住者に対する多様な同化政策として具体化した。

スラブ主義とあわせてロシアの思想界を二分していた西欧主義の信奉者たちはヨーロッパ帝国主義諸国の侵奪を受けていたアジア文明圏の文化的水準を低く評価することで事実上キリスト教圏諸国の帝国主義的侵略を正当化した。これは日露戦争以降黄禍論（Yellow Peril）と人種主義と結びつきロシア地方当局による韓人移住者に対する弾圧と排斥の理論的根拠となった。

1. はじめに

19世紀末から20世紀初め露領地域の韓人移住者に対する帝政ロシアの政策は日露戦争（1904-1905）を分岐点として二つに分けることができる。これは戦争以前の友好的な同化政策と戦争以後の抑圧的な分離政策が交互に現れたという特徴をみせているためだ。このような特徴は露領地域の韓人移住者に対するロシアの政策が自国の東

¹ 本論文は『韓民族運動史研究』第55集（2008. 6）に掲載予定の「ロシアにおける東アジア政策と韓人移住者の政策」を修正・補完したものである。

アジア政策構造的産物であるといえる。ロシア政府の東アジア政策の速度と強度によって、韓人移住者に対する認識もまた「包容と排斥の枠」の中で振り子のようにゆれていたわけである。その結果ロシアの東アジア政策が積極化した場合、露領地域の韓人移住者たちは土地の分配及び国籍獲得問題にあっても地方当局から相当な恩恵を受けた反面、東アジア政策が萎縮した場合には韓人移住抑制および韓人労働者の就業制限政策がともなったのである。

このような現象は 19 世紀後半から具体化したロシアのアジア認識とロシア思想史上の変化とも密接な関係がある。ロシア帝国の東アジア政策と韓人移住者に対する政策の中にはこれらのアジア認識と世界観が投影されていた。近代ロシア思想史の二大傾向は世界文明を東・西・ロシアに区分しロシアのみを肯定的な概念で把握するスラブ主義（Славянофильство）とロシアが追求すべき発展モデルをヨーロッパに求める西欧主義（Западничество）に区分することができる。これらはアジアに対して相反する認識を堅持しており、ロシアのアイデンティティーをとりまく両者間の論争もまたロシアの東アジア政策と韓人移住者政策にも影響を与えることとなった。スラブ主義と西欧主義の対立はロシアの知識人たちを二分しただけでなく、韓人移住者たちに対するロシア政府の「包容と分離」という二重政策として現れることとなった。東西文明間の衝突が発生する場合、ロシアはアジアと連帯してヨーロッパに対抗すべきなのか、もしくはヨーロッパと連帯してアジアに対抗しなければならないのかをめぐる「アジア連帯論」と「ヨーロッパ連帯論」間の論戦もまたアジアに対するスラブ主義と西欧主義間の認識の差にその起源を見出すことができる。同時にこのような認識の差は遠東地域に移住してきたアジア人労働者たちに対する同化政策と分離政策としてあらわれた。したがってロシア人のアジア認識の中に内包されたこのような二重性はロシアの韓人移住者に対する政策を理解する上で非常に重要な意味をもっているだけでなく、事実上露領地域の韓人移住者の日常を規定する重要な要素だった。

したがってロシアのアジア認識上にあらわれた二重性が露領地域の韓人移住者の運命にどのように投影されたかを分析する作業は初期露領地域の韓人移住者社会の形成とその特性を把握するうえできわめて重要な意味をもっている。換言すれば露領地域の韓人移住者社会が初期定着地に根を下ろすことができず、以後苦難と桎梏の過程を経るほかになかった原因をロシアの対外政策のみならずそのアジア認識に探るのが本研究の目的である。このため 19 世紀後半からロシアインテリゲンチヤの話題であったスラブ主義と西欧主義を当時の代表的思想家ニコライ・ダニレフスキー（Н.Я.Данилевский：1822-1885）とウラジミール・ソロヴィヨフ（Соловьёв В.С.：1853-1900）の著作を中心に概観し、彼らのアジア認識がロシアの韓人移住者政策に及ぼした影響を考察してみる。

本稿の議論は次のような順序ですすめてゆく。まず、ダニレフスキーの著作『ロシアとヨーロッパ（Россия и Европа）』の分析を通して反西洋主義とアジア文化に対するその正当な評価を考察する。同時にソロヴィヨフの著作『三つの会話』にあらわれるヨーロッパ連帯論と黄禍論を分析する。第二に露領地域への初期の韓人移住の実態と彼らに対するロシア当局の政策が「包容と同化」の原則に基づいて推進される過程をたどる。第三に日露戦争以後軍事大国に成長した日本に対する憂慮が「黄禍論」へ進化し、それが黄色人種移住者に対する分離と排斥政策へと具体化する過程とその論理を追う。これを通してロシアのアジア認識の二重性の思想的背景を明らかにし、韓人移住者に対するロシア当局の政策が一貫性を欠いたまま矛盾に陥らざるをえなかった点を明らかにすることを本論文の主要な論点としたい。

2. ロシアの東アジア政策と思想的背景

1) スラブ主義とアジア連帯論

19世紀後半からロシア知識人を二分した西欧主義とスラブ主義は時期的に多様な形態に変貌し進化してきたが、西欧主義者たちが西欧に対する憧憬と追従を志向した反面、西欧と対比されるロシアの独自性を強調し西欧に対する批判を加えた反西欧主義者たちの理念的志向には根本的な変化はなかった。西欧主義者がヨーロッパ志向性の当為を主張する論理と反西欧主義者がヨーロッパに対比されるロシアの特殊性を強調する論理は逆説的ながらロシアとヨーロッパを分離してみることができるかということがそれを区分する基準となった。前者がロシアとヨーロッパは密接な相関性を持っているために歴史的、宗教的に分離は不可能だと言う立場をとった反面、後者はロシアの特殊性が明らかに存在し、西欧と別個の独自の発展経路がさなければならないという立場をとっていた。ヨーロッパとロシアの関係についてのロシア知識人のこのような苦悩はロシアとアジアの関係にもそのまま投影され、アジア連帯論とヨーロッパ連帯論という東アジア政策の二重性として表出し、露領地域韓人移住者に対しても矛盾した同化と排斥の政策として表れた。

周知のように帝国主義時代と規定される当時のグローバル時代にはどのような国家も地域的に他の国家と協力することを避けることはできず、独自の発展をすることはできなくなっていた。その結果19世紀後半からロシア思想体系の二大軸をなしていた西欧主義とスラブ主義の相互排他性と一面性を克服し巨大な変化の流れに適応する新しい認識体系の樹立が切実となっていたわけである。すなわち西欧主義とスラブ主義という二つの政治的立場のあいだに中間の道を探すことよりは世界のありかたを変

えている巨大な変化に政治的にどのように対応するかということについての方向提示が求められていたのだった。これは科学技術の進歩と交通通信の発展を通して19世紀中盤以降全世界が資本主義経済体制に編入され、地域単位の認識体系全般に大きな変化を引き起こしたためだった。そのため伝統的価値体系と固定観念から抜け出して大きな変化の世界の中で生き残るための新しい談論がいくつも形成された。

このような時代的背景において東方（アジア）と西方（ヨーロッパ）間の関係に対立と衝突ではなく補完的で対等な観点から相互関係を把握する思想が台頭し始め、その中心にダニレフスキーがいた。彼は自著『ロシアとヨーロッパ』²においてヨーロッパとアジアの区分は事実上名称の区分にすぎないと論じ、学問的に存在する東方と西方の差異を否定した。西方（ヨーロッパ）は進歩の枢軸として不断の自己完結性の象徴として表現され、東方（アジア）は固着と停滞の象徴と把握し西方と東方を進歩と対立する概念によって把握する固定観念を批判した。³要するにダニレフスキーは東方と西方を進歩のものさしで裁断することは誤りであるとし、ヨーロッパ的、アジア的、アフリカ的という表現は単に人間が作った人為的区分に過ぎないという認識論を堅持していた。⁴

このためダニレフスキーは東西問題についてのロシアの役割論を提示し、伝統的ヨーロッパ優越主義に対する再検討を唱えた。これはヨーロッパが進歩を代弁するという当時の自明の道理に反対する人々を守旧と停滞の信奉者と見なしていた固定観念に対する否定から出発した。その理由は第一にこのような固定観念はロシア人をしてヨーロッパ志向の進歩主義者となることを熱望させ、東方と西方の中間者になろうとすることに恐れを感じさせる原因となっていたことだった。第二にヨーロッパ優越主義は大多数のロシア人たちを盲目的なヨーロッパ化へ邁進させる方向に導き、国家と民族の利益に甚大な損失を与える可能性があるということだった。したがってダニレフスキーは東西問題と関連したロシアの役割について、西方または東方に対する唯一つの志向性は究極的には世界史における立場の喪失へとロシアを追い立ててゆくものであると判断している。⁵

² Зеньковский В. В. Русские Мыслители и Европа, Москва: издательство Республика, 1997, с. 60. この著書は 17 章から成り 1871 年初版が出版され 1922 年ドイツ語に翻訳された。

³ Данилевский Н. Я. Россия и Европа // Классика геополитики XIX век, сос. К. Королев. М., 2003. С. 332-335.

⁴ Там же. С. 352-353.

⁵ Там же. С. 347-350.

ヨーロッパ優越主義についてのダニレフスキーの批判はグローバル化してゆく世界的流れに逆行するヨーロッパの地域主義に対する否定とつながるものだった。即ち地域としてのヨーロッパの存在を否定したわけである。彼はヨーロッパが他のどの地域よりもアジア的本質を持っているためにヨーロッパはアジアの一部であると見なし、アジアとヨーロッパは根本的な差異がないという立場をとった。なぜならば大部分のヨーロッパにはアーリア族が移住し、彼らはさらにアジアの相当部分に居住しているためだというのである。そのためダニレフスキーは東方を停滞した歴史発展の本領と見なし西方を進歩の唯一の源泉であると考え人々に次のように問うた：「アジア大陸の西端であるヨーロッパ半島で幾世代にわたって賢明で独創的な労働の結果が蓄積されているとき、はたしてアジア大陸の東端ではどのような文明の成果もなかったのか？古代ギリシャとローマは進歩から程遠い国家というわけではなかっただけでなく中国が経験しえなかった発展をしたにもかかわらずなぜ歴史から姿を消したのか？」⁶したがってダニレフスキーはヨーロッパはアジア大陸の西端に位置する地域でありアジアはその東端に位置する地域であると規定し、東方と西方を区分し対立させることは根拠のないことであると重ねて強調した。

ダニレフスキーはさらに東方を教化しヨーロッパ化するということは進歩の概念と相反するものであり正当化することは出来ないと指摘した。⁷進歩に対する自負心もまた西方、つまりヨーロッパ文化のみの特殊性がもつものではないというのである。世界にはその国が東方または西方のどこに位置しているかに関わらず社会文化発展に素質がある国とそうでない国が存在すると言うのである。もちろんヨーロッパにはその素質を多分に持ち合わせている国々が多くあるものの、アジアにも決してそのような国が存在しないというわけではない。さらに東方は文化発展に非常に有用な要素をさらに沢山持っており、ただ西方に比べて遅れているという認識は相対的な概念にすぎないという。

その例としてダニレフスキーは進歩的ヨーロッパと強烈に対比される中国をあげている。数世紀前まででさえ中国の労働生産性と産業（染料、磁器、絹織物、漆塗りの家具等）の発展水準は非常に高く、労働においては特に西ヨーロッパよりも生産性が数倍も高かったと指摘した。⁸さらに西洋文明の揺籃であった古代ギリシャにおいても為

⁶ Там же. С. 454.

⁷ Данилевский Н. Я. Россия и Европа // Классика геополитики XIX век, сос. К. Королев. М., 2003. С. 382-385.

⁸ Там же. С. 354.

政者たちが迷信にとらわれて流れ星を恐れていたとき、中国では良く訓練された天文官たちが学問的に天体の運動を研究していたことを想起させた。したがって中国において古代文明の基盤の上に偉大な文学、哲学、倫理学が発達したにもかかわらず中国を進歩とは相容れない無能な国家の象徴であるというのは不当だと指摘した。⁹つまりところゲルマン—ローマ文明またはヨーロッパ以外において独自の文明が存在する可能性を否定してきた既存の固定観念に対してダニレフスキーはこのような認識は誤りであり、人間社会の歴史過程を客観的に観察するとき、反駁可能であると判断したのである。¹⁰そのため彼は老衰したゲルマン—ローマ文明に替わる新しい文明の中心にスラブ主義をあげたのだった。

このような思想を背景に推進されたロシアの東アジア進出政策は1891年に着工されたシベリア横断鉄道敷設事業とあいまって本格化した。1892年8月財務相に就任したヴィッテ（Сергей Юльевич Витте：1849—1915）は同年12月皇帝に宛てた上奏書の中でシベリア鉄道敷設事業の意義を次のように説明した。「シベリア鉄道建設は世界史的な事件であり、ロシア史における新しい世紀の始まりを意味し国際経済関係においても本質的な変化を招くものです。そして太平洋沿岸においてロシアの軍事力を強化するものであり、太平洋沿岸諸国との国際貿易においてロシアの優位を得るものです…特にシベリア鉄道はロシアヨーロッパ部だけでなくシベリアにおいても政治、経済、文化的側面で大きな利益をもたらし、ヨーロッパとアジアをつなぐ新しい鉄道網を確立、ロシアだけでなく全世界の貿易拡大のための新しい地平線を開く意義」を持つと述べた。

シベリア鉄道についてのヴィッテのこのような意味づけはロシアがヨーロッパとアジア諸国の通商を仲介することのできる有利な位置を占めているのみならず、アジア諸国との国境を接しているためにこれらの国々との直接貿易が可能である天恵ともいえる条件が整っているという認識に基づいている。彼はヨーロッパとアジアの中間に位置するロシアの地理的長所を鉄道敷設を通して最大限に生かそうとし、これは「ヨーロッパから借りた借款の利子をアジア諸国との通商の利益で返済」しようという自身の産業化政策と連動するものだった。したがってロシア史上初めて行われた積極的な東アジア進出政策は対内的には産業化政策の外縁を拡大する意味も併せ持っていたのだった。そのためヴィッテはロシア産業化の成功のために資本の源泉としてのヨーロッパと商品市場としてのアジアが同時に必要であるという認識を持つにいたり、ロシアを主軸としてヨーロッパとアジアが相互補完的役割を果たす世界秩序の再編成を

⁹ Там же. С. 388-391.

¹⁰ Там же. С. 642-644.

構想することとなった。

1893年ヴィッテはシベリア鉄道の敷設工事の本格化により財務相傘下にアジア諸国との交易増大を議論するための特別委員会（Особое совещание для обсуждения вопросов по развитию русской торговли в Азии）を構成し、これらの国々との交易拡大のための方策を模索した。当時彼は次の理由でアジア諸国、特に清国、朝鮮、日本との交易増大に大きな関心をみせた：1）清国と朝鮮の内陸地方はヨーロッパ人の接近が難しい一方、ロシアはこの地域についての通商増進のための非常に有利な地理的条件がそなわっている点 2）清・韓・日3国の総人口は4億6千万人に及び、これら3国の交易規模が年間7億5千万ルーブルに達していたため、近い将来これらの国々はロシア商品の巨大な消費市場として浮上するという点 3）現時点でモスクワはロシアの物流の中心に過ぎないがシベリア鉄道が完工すれば世界物流史上の中心となるに違いないという点。したがってヴィッテは世界的な物流の拠点として浮上するモスクワにヨーロッパへの輸出品である絹、茶、毛皮類と東アジアへの交易品であるヨーロッパの工業製品等が集まるものと予測した。そのため1893年10月25日ヴィッテは前記の特別委員会議長コベコ（Д. Ф. Кобекко）に清・韓・日3国の交易増大のための持続的な対策整備を促した。その結果ロシアの東アジア政策は韓中日3国をシベリア鉄道の独自の物流網に包摂することにその焦点が合わせられ、東アジア進出を唱える多様な論理が提起されはじめた。

アジア進出論の代表的な論客はロシア皇室側近であり言論人であったウフトムスキー（Э.Э.Ухтомский）だった。彼の思想の核心はアジア連帯論に集約できる。そのアジア連帯論はチベット出身の漢方医バドマイエフ（П.А.Бадмаев）との交流だけでなく皇太子ニコライに随行し世界歴訪をした経験にもとづいていた。強力な中央集権的国家建設のためにジンギスカンを肯定的に評価したバドマイエフはヴィッテとウフトムスキーの全幅の支援の下にロシアの東アジア政策イデオロギーを形成に至大な貢献をした。1893年彼が作成したアレクサンドル3世宛ての「東アジアにおけるロシアの政策課題」（О задачах русской политики на азиатском Востоке）という上奏書には皇帝の使命は中国の併合にその焦点を合わせることであるべきだと力説していた。¹¹このために彼はウフトムスキーのそれと似通った方策を提示したが、中国に対するヨーロッパの強圧的植民地方式を使うよりは、むしろロシアの皇帝に対する中国人の自発的な信頼と尊敬を得ることに狙いをさだめていた。しかし満州族出身の中国皇室にどのように対するかという問題をめぐってバドマイエフは危険な構想を開陳した。彼は中国皇室の統治権を認めるよりはツアーが主導して清国皇室に対抗するチベット、モン

¹¹ Романов Б.А. Россия в Маньчжурии(1892-1906). Л., 1928. С. 82-88.

ゴル、そして中国人たちの反乱を引き起こす革新的な役割を担って中国をロシアに併合し、これを通じてヨーロッパ列強の中国侵略を遮断するべきであると力説したのだった。しかしバドマイェフのこのような見解はウフトムスキーがロシアの未来はモンゴル-チベット-中国にあると皇帝を説得するための根拠にはななかったものの、同時にロシア政界においてバドマイェフが「冒険的夢想家」と見なされる契機となった。¹²

ウフトムスキーは1890年から1891年に当時皇太子であったニコライ2世のアジア歴訪に随行した後、ロシアのアジア進出の目的は英帝国主義に対抗し、その植民地の解放することにあると力説した。彼のこのような認識はロシアの対外政策において満州王朝の保全を積極的に擁護する立場として表われた。1898年ツァー政府が旅順と大連を租借するために中国と協定を締結したとき、中国の分割に賛同した当時の外相ムラビヨフ（М.Н.Муравьев）の政策を辛らつに批判し、むしろ満州を貫通する東清鉄道敷設権を獲得した中国との同盟関係を復元することが急務であることを指摘した人物はウフトムスキーだった。彼のロシア-アジア連帯論は義和団の乱が発生した際これを鎮圧するためのヨーロッパ連合軍に1900年ロシアが加わったときにも変化することはなかった。彼はヨーロッパ列強の貪欲な政策によって反乱と騷擾が発生した東方世界を安定させる使命はまさにロシアにあるという立場を堅持していた。¹³そのためヨーロッパとアジアの衝突を目前にした現時点においてロシアは二大世界（ヨーロッパとアジア）の中間で誰も解決の糸口を見出せない状況に備えて広々とした草原の中で自国の影響力を強化する必要があると力説した。彼の見解によれば、ロシアは平和的に力を蓄えてアジアを支配したジンギスカンの遺産を引き継がなければならないというのであった。¹⁴

2) 西欧主義とヨーロッパ連帯論

19世紀後半ロシア知識人の代表的ヨーロッパ連帯論者は詩人にして哲学者、宗教思想家であったソロヴィヨフだった。彼はヨーロッパ帝国主義諸国の侵奪を受けていたアジア文明圏の文化的水準を低く評価し、事実上キリスト教圏諸国の帝国主義的侵略を正当化した。彼の見解によれば、東方諸民族は自身以外には何も認めない属性を

¹² Лукаянов И.В. Восточная политика России и П.А.Бадмаев //Вопросы Истории No. 4. 2001.

¹³ УхтомскийЭ.Э. К событиям в Китае. Об отношениях Запада и России к Востоку.СПб., 1900. С. 1.

¹⁴ УхтомскийЭ.Э. Перед грозным будущим. К русско-японскому столкновению. СПб. 1904. С. 6-7.

持ち、そのために、必要な進歩を拒否し自発的に自国文化に服従することを要求しているということだった。そのため発展可能性が全くない中国と国境を接しているロシア将来起こることになる衝突に備えてキリスト教文明を東方に伝播せねばならない先駆者的使命を持ち、キリスト教世界と孤立または対立してはいけないという立場を堅持した。そのためロシアは中国と敵対する正当な理由を持っており、ロシア帝国南部地域に植民地を持つヨーロッパ列強、特に英国・フランスと緊密な同盟関係を維持する必要があるというのだった。¹⁵

ソロヴィヨフはロシアがトルコに影響力を発揮する状況でないのなら、少なくとも中央アジアと世界史の中心となる東アジアで主導的役割を演じられるはずだと展望した。そして彼のこのような展望はヨーロッパ連帯論に根拠を置いており、東アジアにおけるロシアの成功は英国との平和協定締結がその前提条件であるという立場を明らかにした。¹⁶ ソロヴィヨフが提示した英露間の協定締結の論拠は次のごとくである。第一に極東において英国との関係が悪くなるというのは愚の極みであり、他人に家族喧嘩をみせるほどの恥ずかしいことである。第二にロシアは黄色人種である中国人よりもシェイクスピアとバイロンの同胞により親密感を抱く。そのため露英両国は東アジアにおいて文化的競争が決して取り返しのつかない敵対関係に変わることのないことを約束する恒久的で真実の協定の締結が必要であると主張した。¹⁷ つまり露英協定論に集約されるソロヴィヨフのヨーロッパ連帯論は人種論とキリスト教中心主義に立脚した黄禍論をその背景としていたのだった。

さらにソロヴィヨフのヨーロッパ連帯論はロシア対外政策上の二つの目標設定を必要としていた。そのひとつはヨーロッパの平和維持であり、万が一黄色人種が友好的なヨーロッパ諸国がロシアを背後から支えていることを知ったなら、ロシアはアジアにおいて行動の自由を持つことができるからであった。ソロヴィヨフの考えによればもしも黄色人種がロシアとヨーロッパとの関係が敵対的であると知ればロシアの国境に武力攻撃を企てるはずであり、ロシアは1万ヴェルスター以上離れた場所にそれぞれ戦線を形成しなければならなくなる。もう一つは野蛮人の文明化だった。野蛮国の

¹⁵ *Межуев Б.* Моделирование понятия национальный интерес-на примере дальневосточной политики России конца XIX- начала XX века //Русский Архипелаг. 2004. С.12.

¹⁶ Три разговора о войне, прогрессе и конце всемирной истории. со включением краткой повести об Антихристе и с приложениями//Русские философы о войне. Сос. И.С.Данилеко. М., 2005. С.143.

¹⁷ Там же. С.144.

文化的進歩を成し遂げるためにはヨーロッパ諸国の合同の努力が必要であり、地理的側面からいっていかなるヨーロッパ列強よりも有利な立地を占めるロシアは野蛮人の文明化の先頭に立つべきだというものだ。これは野蛮国の抵抗を阻止するためにもヨーロッパ諸国が行動を一にすることが必須であるためだった。¹⁸ 結局モンゴル族の侵略を阻止しアジアを文明化するために最優先すべき前提条件はヨーロッパの平和でありその骨幹は英露協定の締結だった。¹⁹

ソロヴィヨフのこのような認識は日露戦争直後ロシアの対外政策として実現したということは注目に値する。日露戦争に敗北したロシアは日本の膨張の阻止と東アジアに対する既存の影響力維持のために伝統的に敵性国家であった英国と協約 (Anglo-Russia Convention) を締結し (1907)、いわゆる三国協商体制 (Triple Entente: 英、仏、露) を構築した。同時に対内的にも沿海州軍務知事ウンテルベルゲールが露領地域韓人移住者に対して人種主義に立脚した弾圧政策を強化した。

さらにソロヴィヨフはその遺稿『三つの会話 (Три Разговора)』第三部においてヨーロッパ民族間の不和が招来する新モンゴル族のヨーロッパ侵攻の脅威論を具体的に描写し、黄禍論の危険性を取り上げた。²⁰ 彼が描いた黄色人種のヨーロッパ侵攻論は21世紀ヨーロッパ統合の出発点と見なされているように、モンゴルの支配から抜け出すためのヨーロッパの団結と欧州連合の誕生のためのシナリオの幕あけとしての意味をもつといえる。モンゴルの侵攻とこれに対抗する闘争によって遅れていたヨーロッパの文化的発展は過去の物質主義から抜け出して精神的、宗教的未成熟を克服した超人 (Сверхчеловек) が現れ、全世界のキリスト教と君主政が結合した神政論的ユートピアを具現すると言う筋書きをもつこの著作は黄禍論とヨーロッパ中心主義が作り出す弁証法的理想国家論の産物だった。ソロヴィヨフが想像したアジアとヨーロッパの関係は二つの時期に区分されるが、20世紀初めのアジアのヨーロッパ侵略と支配に明け暮れる戦争の時期と21世紀にはいって黄色人種の支配から解放されヨーロッパ合衆国を建設しついに全世界的に君主国とキリスト教のすべての宗派が結合する全世界神政国家が実現する千年王国の時期がそれだ。したがってソロヴィヨフにあってアジアの野蛮性と侵略性は千年王国という理想国家樹立の端緒でもあり、アジアは依然として手段でありヨーロッパは崇高な目的を抱く神聖な有機体だった。したがって黄色人種の役割はソロヴィヨフの詩「パンモンゴリズム (Панмонголизм)

¹⁸ Там же. С.143.

¹⁹ Там же.

²⁰ Соловьев В.С. Краткая повесть об Антихристе//Русские философы о войне. Сос. И.С.Данилко. М., 2005. С.208-212.

3 M) 」において次のように記されている。「パンモンゴリズム（汎モンゴル主義）その名は荒々しく猛々しいが 私の耳には甘く聞こえる さながら神の意図された巨大な運命の前ぶれのように」²¹

ソロヴィヨフは20世紀をキリスト生誕以後最後の大戦争、紛争およびクーデターの世紀と規定し対外戦争の中でも最も大きな戦争は19世紀末すでに日本に生まれた知識人運動である汎モンゴル主義がその原因となるはずだとみた。ソロヴィヨフのこのようなアジア認識がよくあらわれている汎モンゴル主義は日本と中国が結合しその威力を発揮することになっているが、汎モンゴル主義とそれがヨーロッパと世界史の展開に与える影響を彼の著作を通して見てみよう。「模倣をするのがうまい日本人たちは恐るべき速度でヨーロッパの物質文明と低級なヨーロッパの諸思想を受け入れて新聞と歴史の本を通して西洋からヘレニズム、汎ゲルマン主義、汎スラブ主義、汎イスラム主義の存在を知り、ついにはパンモンゴリズム（汎モンゴル主義）という巨大な思想を宣する。これは日本を首長として異邦人即ちヨーロッパ人に抵抗し積極的な闘争を展開することを目的として東アジアのすべての人民たちを一つに結集させる思想だ。

20世紀初めヨーロッパがイスラム教徒との闘争に明け暮れていた時その合間をぬって彼らは巨大な計画の実現に着手する。まず韓国を占領しその後北京を征服し、そこで中国の進歩政党の助けを借りて老衰した満州王朝を転覆させ、それに代えて日本王朝を据える。さらに中国の保守派も同意したごとく、二つの悪のうち害の少ないほうの悪を選択するほうがよいという判断をしたためである。つまり、中国の独立はどちらにしても維持できないのだから日本又はヨーロッパに服属することが不可避であるなら前者のほうがまだましだということである。ヨーロッパ諸国がキリスト教宣教師の政策を支援しながら中国の精神世界を深刻に脅かしているとき、日本は中国の主人の座につき、対外的には中国の国権を抹殺しても中国人の日常生活の原則を壊しはしないのでこれはヨーロッパに不利な状況となりうるということである。したがって過去の日中間の対立は両者共にヨーロッパを知らなかったために高潮したが、目の前に共通の敵が現れたとき両国の類似の種族同士の間での対立は意味を失うこととなる。もはやヨーロッパは完全に異邦人であり共通の敵となった反面、中国人は日本が主唱する汎モンゴル主義の旗のもとに過去において避けるすべなく断行したヨーロッパ化の過ちをただすだろう。日本人はこのように言うだろう。兄弟たちよ自分達は西洋の犬どもから武器を取り上げ彼らを敗走させよう。もしも自分達に与して命令に従うなら自分達はアジアから「白い悪魔（Белые Дьяволы）」を追い払うだけでなく本物の中華国家を創り上げよう。あなたたちは民族的誇りとヨーロッパ人に対する先入観をもって

²¹ Там же. С. 208.

いるが、それは幻想にもとづいた感情的なもので、冷徹な理性によって判断できないでいる。自分達は共通の利益のための道を提示しよう。²² 反面ロシア、英国、フランス、ドイツはあなたたちを跡形ものこらないほどに分割しようとした。

賢明な中国人たちは日本のこのような主張に首肯しつつ汎モンゴル主義の立場は強化される。したがって日本は強力な軍隊と艦隊を建設し、これを中国へ移動させ、新しく強力な軍隊を構成することとなる。日本の将校達は中国軍を訓練したヨーロッパの教官に代わって満州、モンゴル、チベットの移民たちを有益な兵力として糾合する。以後彼らはトンキンとシャムからフランスを追い払いビルマから英国を追い出しインドシナ半島を中国に服属させる。中国人の狡猾さと日本の活力を合わせた彼らはトゥルケスタンから400万の軍隊を募り中央アジアを侵攻しウラル山脈を越えて中部・東部ロシアへ押し寄せるものと予見される。そのためロシアは緊急にポーランド、リトヴィア、ペテルブルク及びフィンランドから軍隊を動員しようとするが戦争計画が出来上がっていないうえに数的な劣勢によって敗戦を繰り返す。その後中国はドイツを侵攻、その合間にフランスはドイツに復讐戦を敢行しドイツもまた中国に敗北を喫する。そしてパリでは移民労働者たちの暴動が発生し東方の侵略軍に城門を開け放つ。そのため中国は英国を攻撃するが後者は中国人を金銭で買収する。結局中国のヨーロッパ侵攻1年後に全ヨーロッパは中国に服属する朝貢国家となる。²³

中国は占領軍の一部をヨーロッパに残し米国と豪州の征服のために軍隊を東方に引き返す。そしてヨーロッパに対する新モンゴルの支配は半世紀間続き、アレキサンダー大王の遠征時同様の東西文化の融合と相互浸透現象が起こる。これは結果的に次の三つの現象を招く： 1) ヨーロッパへの大規模な中国及び日本人労働者の移住 2) 大規模移住によって惹起される社会経済的葛藤 3) 中国支配階級の持続的弾圧は秘密結社を結成しようとする国際的活動を強化させ、全ヨーロッパ的レベルでモンゴル族を追い出しヨーロッパの独立を取り戻そうとする計画が生まれる。結局全ヨーロッパにおいて秘密軍事組織が生まれ、これらを結集させる細部計画が立てられる。これらの動きを鎮圧させるために中国からロシアに急派された新中国の征服者の後裔たちはヨーロッパ統合軍によって壊滅させられる。したがって半世紀にわたるアジアの野蛮人への服属はヨーロッパが個々の民族の利益のみを考えて分裂したことに起因したものであるなら、華々しい解放運動はすべてヨーロッパを統合した国際組織によって

²² Соловьев В.С. Краткая повесть об Антихристе/Русские философы о войне. Сос. И.С.Данилеко. М., 2005. С.208-209.

²³ Соловьев В.С. Краткая повесть об Антихристе/Русские философы о войне. Сос. И.С.Данилеко. М., 2005. С.210-212.

成し遂げられるものであり、21世紀のヨーロッパは個々の民族単位の古い政治組織の枠を破って民主化された諸国の連合であるヨーロッパ合衆国の誕生を予見することができる。」²⁴

以上がソロヴィヨフの死亡年に発表された「三つの会話」（1900）の内容の一部だ。20世紀を世界戦争の時期であるとして新しい「モンゴルの枷」がヨーロッパに生じる原因を19世紀末の日本に表われた汎モンゴル主義に求めたソロヴィヨフはアジア人の軍事的膨張主義に対するロシア人の恐怖心と警戒心を増幅するのに一役買ったといえよう。同時に彼はロシアの東アジア政策について全く違う使命を挙げていた。彼は潜在的な黄禍論にそなえるためにはヨーロッパ列強との連帯の強化がロシアにとって必須であるという立場を固守した。

ソロヴィヨフのこのような見解はロシアの自由主義思想家であったトルベツコイ（С.Н. Трубецкой）の支持を受けたが、彼はウクトムスキーが発行していたサント・ペテルブルクの情報誌の編集長であった。トルベツコイがヨーロッパ外交の拙劣さを猛烈に批判していたという点と新聞発行人ウクトムスキーがヨーロッパの植民地国家との闘争のためにロシアとアジア間の連帯を主唱していたことは一見両者間の反西歐的感性の同質性を指摘することができるかのである。しかしウクトムスキーがアジア諸国を指導する白人皇帝（ツァー）主義を実現するために汎西歐的立場をとったとすれば、トルベツコイは中国の脅威を取り除くための最善の方策はまさに中国の分割にあるにもかかわらずヨーロッパ帝国はそのための共通の努力よりは貪欲な自国利己主義的外交路線を追及していると指摘していたのだ。彼の見解によればロシアの外交目標が中国との同盟締結に焦点が合っている反面、英国はむしろロシアに狙いを定めて日本と同盟関係を結んだことはヨーロッパ外交の拙劣さの極致だということだった。²⁵

しかしソロヴィヨフの死後4年がたった後、ウクトムスキーは1904年「危険な未来。露日戦争について」という自身のパンフレットの中でソロヴィヨフが提起した汎モンゴル主義の問題点を指摘した。ウクトムスキーによればジンギスカンの遺産はアジア・中国人たちに残されたものではなく、むしろツァーが統治するロシアが継承したものだ。そのためどのような汎モンゴル主義も、どのような「アジア人のためのアジア」というスローガンも、そして日本もまた東方を鼓舞しヨーロッパに対抗する

²⁴ Там же. С. 213.

²⁵ Трубецкой С.Н. Смерть В.С.Соловьева 31 июля 1900 г.// Книга о Владимире Соловьеве. М. 1991. С. 294.

実質的能力がないというのだった。古代と中世の偉大な帝王たちが堅持した世界支配思想はタタールの支配を果敢に退けたロシア人民の地の中に流れているのだと言うのである。要するに勇猛な軍隊の指導者、不敗の帝国、強靱な国家精神の持ち主はロシア帝国だということであった。²⁶

以上見てきたようにロシアの東アジア連帯論とヨーロッパ連帯論に見られる二重のアジア認識はヨーロッパとアジアの中間に位置するロシアの停滞性をめぐる悩みが基盤となっている。そしてこのような相反するアジア認識はロシアの東アジア政策にかわるがわる登場する特徴と考えられる。1896年アジア連帯論に根拠をおき中国との同盟関係締結を通して満州進出の有利な立場にあるロシアは以後、日本の侵略から中国を助ける保護者のイメージを捨て、その侵略性を表し、旅順占領（1898）と義和団事件を契機として中国分割のさきがけとなり、結局は侵略者のイメージを東方に植え付けた。これはヨーロッパとアジアからのロシアの孤立を招く結果となった。そしてこの孤立は日露戦争における敗北に帰結し、ヨーロッパの貪欲とアジアの停滞を克服する代案としての役割が期待されていたロシアの優越性についての自負心もまた大きく損なわれることとなった。

3. ロシアの韓人同化政策

1860年の北京条約によって中国からウスリー以東地域を公式的に譲り受けたロシアはこの地域の開発のためにアジア人、特に韓人移住者を積極的に受け入れた。初期韓人移住者たちはロシア農民と対等な待遇を受け、土地分与及び国籍取得においても特惠を与えられた。そのため初期において露領地域への韓人の移住は家族単位の移民という特徴をもつこととなった。

沿海州への韓人の移住は1856年に始まったが、1860年11月2日北京条約の締結によってユズノーウスリー地域がロシアに編入され韓露間の国境が明確になった後に露領地域への韓人の移住が始まったといえる。1863年までのウラジオストックへの韓人移住は陸路及び海路によったが通商は季節労働者たちが夏に渡ってきたのち秋には帰還する個人的な性格のものだった。しかし1863年以降には韓人の移住は家族単位で行われ、初めに13家族が移住しロシア国有地を開墾しポシエト（Посьет）地域に開拓村を建設した。1864年には60家族3,080人の韓人が

²⁶ *Межуев Б.* Моделирование понятия национальный интерес на примере дальневосточной политики России конца XIX- начала XX века //Русский Архипелаг. 2004. С.14.

露領へ移住しヤンチヒンクス（Янчихинской）、アジミンスク（Адиминской）、シジミンスク（Сидиминской）県等に10の開拓村を形成し、²⁷以後、韓人たちはユズノーウスリースク地方内陸に移住していった。

しかし露領地方への韓人の移住が急増したことでいくつかの問題が露呈した。問題の核心は韓国政府の苦情と密入国者の増大であった。韓国からの逃亡者や離脱者がロシア領へ移住したことから韓国政府が苦情を申し立て、特に辺境地方の地方官たちはロシアへの密入国者たちが原因で通関旅券及びビザ発給費用をとりたてることができなくなりこれを問題視しはじめたのだった。だがロシア政府と露領地域の韓人との葛藤の核心はロシアの地方行政官たちがこの地域においてロシア人よりも韓人たちが数的に優勢な事態について憂慮を隠しきれなくなっていたという点だった。そのためロシアは自国の農民たちを遠東地域へ移住させる事業を国家的に推進するに至った。そして1884年ブリアムール州（沿黒龍江州）総督部が設置された後、ロシア皇帝は1886年この地域の行政と司法改革法案および必要な官僚の人数を把握し報告書を提出することを指示した。当時この地域の人口は総755,993人（ブリアムール地域：70,858人、沿海州：89,000人、ジャバイカルスカヤ：542,381人、サハリン：13,900人）だった。この中で沿海州のいくつかの民族のうち12,050人の韓人が居住しており、中国人は14,891人であり、このうち14,000人は満州出身で瓊瑯条約締結当時黒龍江のロシア側沿岸に残った者として中国の司法権管轄下に置かれているものだった。他方1890年までにこの地域に移住したロシア農民は16,101人であり、1883年から3年間に国の支援を受けてチェルネコフスキー（Черниговский）地方の農民たちが沿海州南部へ移住したが、その数は4,710人に過ぎなかった。オデッサからウラジオストックへ船舶で移住する場合600ルーブルかかったが、これを自費で賄う移住者は全部で2,873人に過ぎなかった。彼らは国費で移住してきた農民よりも現地でより成功的に定着している。そのため1887年移住費用を自費で賄ってウラジオストックに渡る場合、1家族あたり600ルーブルの定着金を支援し33年にわたってこれを償還するという皇帝の勅令が公布された。その結果1892年までにユズノーウスリー地域にロシア農民17,000人から19,000人が移住してきた。²⁸

²⁷ Российской государственной исторической архив Дальнего Востока(以下、РГИАДВと略する)。Ф. 87. Оп. 1. Д.278. Л.50-54:Выписка из отчета Генерального штаба капитана Гельмерсена о поездке в гавань Посьета в 1865.

²⁸ РГИА ДВ. Ф. 1. Оп. 1. Д. 1383. Л. 4-36: Всеподданнейший отчет приамурского генераль-губернаторства с 1886 г. по 1891 г.

遠東地域へのロシア人の移住は荒地が多く残っていたためこの地域の開発の死活問題ともいえた。そのためバイカル東部地域へ流刑者を移住させる政策が推進され、ジャバイカル（Забайкалье）地域は流刑者たちが移住してくることで人口が増加した。彼らは犯罪者であったというだけで生活様式はロシア・ヨーロッパ部と同一だった。流刑移住者たちの中で要注意人物はユダヤ人でありヨーロッパにおいても平凡なユダヤ人は危険人物であるが犯罪を起こして流刑に処せられたユダヤ人たちは非常に質が悪かった。そのため地方官たちはユダヤ人をここへ追放することを中止することを政府に請願したが、ロシア政府は結局にこの地域にユダヤ人自治区を建設するという計画をもっていた。他方、この地域への韓人移住は、沿海州居住韓人たちははじめは3000人に過ぎなかったが、1886年と1887年を頂点として急速に増加したものの、1888年陸路通商章程が締結され旅券を所持している者だけが国境を通過することができるようになり、韓人たちの増加率は頭打ちになった。このため沿海州の仕事はロシア人の手に移るという現象が表われたがロシア行政官たちはすでに定着した韓人たちの勤勉性を高く評価していた。²⁹

その後シベリアと遠東地域をロシア人の手で開拓しなければならないという立場を堅持してきたコルフコンの後継者であり1893年に早くも地域開発のために外国人労働力の利用を選択したドウホフスコイ（ДуховскойС.М.）がプリアムール州の総督として赴任したことにより、この地域の韓人問題が新しい角度から提起された。ドウホフスコイは地域開発のために韓人たちを利用しようとし、彼らに土地を分配し、そのロシア国籍取得を容易にした。彼は地域開発の観点から韓人に特惠を付与し物質的条件を整えてロシアに忠誠心を持つようにさせることが絶対的に必要であると判断した。これは韓人を速やかにロシア化させ地域の人口を増やすことが必要であると判断したためだった。³⁰

ドウホフスコイは韓国国籍の韓人もこの地域において長期間居住したためにロシアの行政及び法律を熟知していることから、彼らがロシア国籍取得を請願した場合にはこれを受容すると決定した。彼は韓人たちが非常に勤勉であるために追放する理由を見つけないだけでなく、彼らは追放された場合満州へ移動することが明らかであるために、むしろ中国の辺境に有利な結果を招くことになるかと憂慮した。そ

²⁹ РГИА ДВ. Ф. 1. Оп. 2. Д.1048. Л.20: Циркуляр городским и окружным полицейским управлениям и должным лицам Приморской области о порядке выдачи корейским подданным русских билетов.

³⁰ Всеподданнейший отчет Приамурского генерал-губернатора за 1893-95 гг. СПб., С. 28-29.

のため韓露国境地帯のスイプンとポシエト地域の韓人に国籍取得を許容し、現在彼らが暮らしている土地に住み続けることができるよう対策をたてる必要性を強調した。同時にこれらの人々にロシアの農民としての権限を付与することでロシア人農民と同等に土地を利用することができるようにした。その結果1896年1月1日からこの地域の韓人たちに国家と地方農民合同体の賦役と納税の義務を賦課し、韓人にもロシア農民と同等の恵沢を受けることができるよう措置をとった。そして彼らが早急にロシア土着民と同化できるようにするために、朝鮮風の髷を結う慣習を禁止することとし、韓人社会の自治行政権も付与することとした。³¹

これにともない 1895 年スイプン地方の韓人たちの忠誠誓約が行われ、1896 年にはポシエト、1897 年から 98 年にはそれまでに諸事情によって宣誓できなかったこれらの地域の韓人が忠誠誓約を行った。これにはロシア国籍の韓人のみならず韓国国籍の韓人たちも参加した。このようにドウホフスコイは韓人たちが集団居住村を形成できるようにしたことにより多くの韓人の露領地域移住を促進したのだった。1894 年ドウホフスコイは韓人に国境から遠く離れた地域にある国有地への入植を許可し、ハバロフスクから 80 ヴェルスター離れたホル（Хор）河べりに新しい韓人部落アレクサンドロポーミハイルロブカが作られ、イマン（Иман）河に沿ってルカヤノフカ（Лукаяновка）、アプクストフカ（Августовка）が形成された。要するにドウホフスコイは遠東地域開発のために韓人の国籍取得を容易にしたものの、彼らの現地同化を促進するために居住地域は韓露国境から離れた内陸地域に限定したというわけである。その結果 1895 年露領地域にはロシア国籍の韓人（第 1 分類）が 11,311 人、韓国国籍の韓人（第 2 分類）2,400 人、そして 1884 年以降に移住した第 3 分類の韓人 3000 人が居住することとなった。³²

ドウホフスコイの後任として赴任したグロデコフ（Гродеков Н.И. : 1898-1902）は前任者の韓人関連政策の方針をそのまま引き継いだ。1898 年に彼は「中国及び韓人移住民問題委員会」を設置し、同委員会はプリアムール州の中国・韓国国籍者についての条例を作成した。この条例は、まだ国籍を取得できていないすべての韓人はロシア国籍を取得できることとし、ウスリ地域において5年以上居住した第2分類の韓人にも国籍取得を約束し、第3分類の韓人にもハバロフスク近辺へ移住を許可した。

³¹ РГИАДВ. Ф.1.Оп.1.Д.1317.Л.1, 2, 8, 8об. 9, 9об,10, 10об 露領地域の中国・韓人社会の自治行政についての監査報告書、1893年4月28日。

³² Там же. 特に第2分類に属する富農たちはロシアに異なる名前で居住するためにこの証明書を50-70ルーブルで買い入れることもあった。

このように1900年までにロシアに移住した韓人の国籍取得問題は画期的に解決した。これは露領地域のすべての韓人を自国民化することにより、ツァー政府の積極的な東アジア政策と相俟ってこの地域に対するロシアの影響力をより拡大しようという政策の産物だった。よってすべての韓人にロシア国籍取得を許可し、彼らをロシアの農民の一員とするとともに朝鮮式の鬻を切るよう強制したのだった。そして1家族あたり50ジェシャチーナ（1ジェシャチーナは1.09ヘクタール）の土地を分配し、土着民と同一の足場にたって同じ種類の税金と賦役を賦課し、ロシア人と同化することのできるすべての措置をとることとした。そして韓国国籍の農民にはどのような形態であれ土地開墾をできないようにした。

ドウホフスコイとグロデコフのこのような政策はロシアへの韓人移住者の数を急速に増大させた。1894年プリアムール地域に9,980人の韓人が海上から移住し、そのうち3,995人はウラジオストックに、5,985人はアムール州に移住した。ユズノーウスリースク地域には1895年春から新しい韓人移住者が増加した。1895年プリアムール地方には公式的に18,400人の韓人が居住し、そのうち16,700人は沿海州のスイプンとポシエト地域に居住し600人はハバロフスク近郊に、1,100人はアムール州カザク居住区域のブラゴスロベヌイ（Благословенный）部落に居住した。沿海州住民の数は1891年には12,857人だったが、1902年には32,380人に達した。³³

1880年から1990年代のロシアの韓人移住者政策は移住民たちを活用しウスリー地域の広大な荒野をまず開墾し、これによって以後ロシア人移住民の定着を容易にしようという計画の根本だった。さらに韓人移住者の増加は都市への安い労働力の流入を意味し、ロシア富農を量産し小作農業を拡散させる結果をもたらした。そのため韓人を利用して地域の開発と定着民増加を企図したドウホフスコイとグロデコフ両総督の政策は結果的に19世紀末20世紀初頭の第一次韓人移住の波を触発したのである。

4. ロシアの韓人分離政策

韓人の露領地域移住を促進したロシア地方当局の包容と分離政策は日露戦争の敗戦を起点として韓人に対する抑圧と分離政策へと変化した。敗戦によって軍事力を消耗し尽くしたロシアは従来の軍事力に基盤を置いた膨張政策を捨てて協商と妥協を通してロシアの利益を守る実用外交を追及した。日露戦争以後東アジアよりはヨーロッパを重視した新任外相イズボルスキーは伝統的に敵性国家であった英国と協商を締結し

³³ РГИА ДВ. Ф. 702. Оп. 7. Д. 40 Л.117-121: Объяснительная записка к проекту постановлений, касающихся китайских и корейских подданных, проживающих в пределах Приамурского генерал-губернаторства. 1901 г.

(1907)、いわゆる「三国協商」体制の樹立に寄与し、これは敗戦と革命の渦中にあったツァー政府の国内改革に必要な平和的な対外環境を作り上げた。英国との敵対関係の清算という意味をもつ英露協商はソロヴィヨフが唱えたヨーロッパ連帯論の実践であり、以後ロシア地方当局の対韓人政策は黄禍論と人種主義と結合し韓人移住民を排斥する分離政策として表出することが予見できた。

このような傾向は特に 1906 年プリアムール総督にウンテルベルゲル (Унтербергер П.Ф.) が赴任したことで顕著になった。彼は遠東地域への移住はロシア人を優先で行われるべきだという立場をとっており、その総督職在職期間はストリピンの農業改革 (1906-07) と軌を一にしていた。ストリピンの農業改革は富農の育成を狙いとしており、広大な土地を求めてのヨーロッパ部から大規模な農業移住を触発した。その結果 259,470 人が遠東地方に到来し、そのうち沿海州の定着農は 167,547 人 (64.57%)、アムール州は 91,923 人 (35.43%) に達していた。またこの時期には非農業人口の移住も増加し、金鉱採掘と鉄道敷設現場に 23,008 人が到着した。その結果 1917 年時点で沿海州のロシア人とウクライナ人は 748,300 人に達した。1882 年にはプリアムール地方のロシア人総人口は 67,708 人に過ぎなかったが韓人の場合 1882 年の 10,761 人から 1917 年には 10 万にのぼった。さらに 1916 年の資料によれば遠東地方には中国人は 78,100 人、日本人は 4,900 人が居住していた。したがってウンテルベルゲルはプリアムール地方の初期開拓史において韓人の勤勉性と謙虚な性格を高く評価しながらも、彼らが土地に定着しようという傾向が強くと同化しようとはせず、そのためロシア内に「自分たちの国」を建設しようとしていると評価した。このような状況において韓人移住農の増加は土地の不足によって究極的にロシアの植民化を妨げる根本的な障害物となると見なされたのだった。よって彼は韓人たちのロシア国籍取得に強力に反対し、その理由は国籍を与えれば彼らに土地を分配しなければならず、それはプリアムールにおける彼らの立場をさらに強化することになるからということだった。そのうえ日露戦争での敗北以後、日本の再侵攻が予想される状況においてロシアへの同化が困難な韓人たちの増加する地域の防衛のという側面からも望ましくないという判断が働いていた。³⁴

韓国問題についてのウンテルベルゲルの見解は1908年3月8日の内務相宛ての彼の書簡に反映されている。この書簡によれば1905年に日本が韓国の主人として振る舞いはじめて以来ロシアへの韓人の移住が急増しはじめ、これ以上の韓人への土地の分配が不可能になったが、彼らは他の迂回路を確保し国家、富農、カザク人個人所有者、教会の領地、山林官の土地を借りており、彼らに対する統制が可能な地域から遠く離れ

³⁴ Пак Д.В. Корейцы в российской империи. Иркутск. 1994. С. 97-98.

たところに勝手に国有地を開墾しているというものだった。さらに相当数の非農業移住者が金鉱の採掘労働者として雇われ、その中でかなりの者が一定の期間が過ぎてからは韓人部落の住民または不法土地獲得者もしくは小作農として土地に定着するという。³⁵

総督の立場からはこのような現象の危険性は明白だった。第一にロシアの極東政策の焦点はロシア人移住を通して速やかにプリアムール地域の人口密度を高めることであつたために政府のすべての関心は移住問題の定着に集中していた。このような側面からみれば、わずかな土地もロシアにとっては貴重であり韓人たちが相当な面積を確保する場合、彼らの追放については相当な困難が予想されるだけでなく太平洋沿岸でのロシアの立場を弱くする可能性があるという点だった。第二にロシア国籍を取得し正教に改宗した韓人がロシア住民と同化するだろうという期待は根拠のないものであり、経験からいってユズノーウスリースクに約40年間居住した韓人たちは一部を除いて自身の固有な民族性を完全に維持しており、すべての面において変わることなくロシアにおける異邦人のままだい。第三に日本または中国との戦争時、彼らの忠誠心は絶対に期待できない。それどころか彼らはむしろロシアの敵性国家のために諜報網を組織することのできる友好的な土台を提供しうる。このためロシアへの韓人たちの編入は日本人にとって有利なことであり、したがって後者はこのような移住を奨励しているということだった。そのため韓人たちに土地を小作させる方式で経済を運営しようとしたこれまでの方式はロシア人農民を独立的な農業労働から遠ざける贅沢癖をつけさせるものであり、怠惰と飲酒にふけるきっかけを与えていると結論づけた。³⁶

韓人農民に対するウンテルベルゲルのこのような否定的な見解はロシア国籍をすでに取得した韓人にも及んでいた。彼は韓人部落で家族台帳作成時に行政を受け持つ韓人の広範囲な不正を遮断するために、韓人の名簿作成においては非常に厳格に行うことを明らかにした。彼の見解によれば「韓人の特徴は可能であればとにかく土地に定着することであり、よってロシア国籍の韓人たちは自分の土地を漸次拡大し四方に土地を賃貸することで韓国国籍の韓人の移住の根拠地を作っている」ということだった。「しかしこれを根絶するのはたやすいことではない。ロシア人住民たちの協力は皆無であり、韓人を安い労働力、扱いやすい便利な小作農と見なしているために、彼らはみな韓人を自分の土地を引き入れようとしているためだ」という。

³⁵ РГИА.Ф.394. Оп.1. Д. 37 Л.2-3. Письмо Приморского генерал-губернатора Унтербергера министру внутренних дел. Хабаровск, 8 марта 1908 г.

³⁶ АВПРИ. Ф. Тихоокеанский стол, 1896-1908, Д. 1089 Л. 39. Всеподданнейший отчет Приамурского генерал-губернатора Унтербергера за 1906 и 1907 гг. Хабаровск. 1908 г.

ウンテルベルゲルのこのような考えは1906年から1907年の上奏書にもそのまま表れている。その内容は、韓人たちの移住がもつ巨大な危険性は（1）プリアムール地域をロシアの確実で信じるに足る担保とするためにはこの地にロシア人を定着させねばならない。しかし韓人たちの広大な土地所有は彼らを将来ここから追放する場合に相当な抵抗があることを予想させ、これは黄色人種の侵略に抵抗する我々の力を弱めることもありうる（2）韓人たちをロシア化させることは不可能であり、韓人を多数含めるのは望ましいことではない、つまり清国と日本との戦争の際に非常に不利益をこうむりうる、（3）小作制はロシア人農民を墮落させうるためにこのような状況は戦争が発生した場合、勇敢で独立的な精神で祖国のために身を捧げるロシア人住民よりは小心で無気力な住民たちと関係を結ばねばならない危険性がある、というものであった。³⁷

ウンテルベルゲルは自身の結論を 1910 年 10 月アムール地域を視察した外務省全権委員グラベ（Граве В. В.）に個人的に会った際にも再度強調した。ウンテルベルゲルはロシア人農民にとって非常に困難な広大な荒野を開墾した韓人たちの能力については否定しなかったものの、まさにその点にこそ問題があると述べた。なぜなら韓人たちは困難な場所を開墾し隣の良質な土地を獲得し自分の親戚や知り合いを呼び寄せて、その結果新しい住居地が作られるというわけだ。そのため彼は韓人たちにロシア人が開墾できなかった土地を分け与えるという移民政策は国益に反するという立場を固守した。彼は自分は韓国人の敵ではないが前任者たちの政策には同意しないという立場を明確にした。

このような立場は特に国粹主義的な傾向のロシアブルジョアたちの全幅の支持を得た。これはリュバトビッチの発言からも明らかにわかるように、「最近4年間韓人のわが国の遠東地方への移住がまるで伝染病のように拡散している。それもすべての土地が韓人が掌握しているといえるほどだ。すべての韓人は不法に居住しておりロシア人は完全に黄色人種によって土地から完全に隔離され、他の領域、つまり通商、製作所、手工業、馬車輸送、沿岸輸送分野もまた韓人と中国人によって掌握されている。」と指摘した。また、韓人たちは定着し急速に森を切り開いており、種まきのために新しい場所へ移動を繰り返しては森を焼いてしまっている、韓人たちは新しいタイプの略奪的農民であり、彼らが通った後は完全に廃墟となっていると強調した。彼の主張によれば、1910年ポシエト地域の韓人居住民は約3万人だが、その三分の一は不法居住しており残りの三分の二もまた統制不可能な状態にある。そのためリュバトビ

³⁷ Граве В.В. Китайцы, Корейцы и Японцы в приамурье. С-Петербург, 1912. С.137.

ッチは次のような結論を下した。韓人たちは悪を量産しており、彼らは自分達が墮落しているだけでなく自分達と交わるロシア人もまた墮落させている。ポシエト地域は韓人が居住するようになって以来悲しい歴史的経験をもつようになったが、これはユダヤ人がエジプトに捕囚された時現地に同化しなかったのと同様だ。土地を荒廃させたこと以外にはエジプト人にユダヤ人が残したものは何もない。それと同じことをこの地で韓人たちが繰り返している。韓人たちは土地を没収した後農夫から新しいタイプの黄色人種「ユダヤ人」になるはずで、むしろ黄色人種の農夫よりももっと恐ろしい形をとるだろう。そのため何よりも彼らの住居地を焼き払いどこへ追放するべきかについて妙案を考え出すことが必要だ。³⁸

このような人種差別的な見解はウンテルベルゲルの総督在任期間を通じて継続して表われつづけた。彼は沿海州軍務知事に強力な命令書を下達したが、その主な内容は 1) 外国籍の移住者への国有地払い下げ厳禁 2) 国営事業場での外国人雇用禁止 3) すべての国営企業体と利権事業場と国有地賃貸事業場における優先的に中国人と韓人労働者の交代 4) 黄色人種の流入を遮断するための計画案樹立までどのような特惠も与えず、韓人の流入を防ぐためのすべての対策を講じること 5) これらの趣旨によって沿海州とアムール地域に警察官吏 19、通訳官 8、個の騎馬警察職制 101 を新たに設けることを指示した。さらにこのために必要な年間 146,082 ルーブルの費用は外国国籍の中国人と韓人に課税してこれから充当することを指示した。

ウンテルベルゲル総督の韓人移住農民に対する否定的な見方は次のような論拠に基づいていた。これから 50 年後にロシアの人口は 3 億人に達する見込みでヨーロッパ部地域では次世代のための土地を準備しておくことが容易でないだけでなく海外に植民地をも保有しないためにシベリアと極東地方が過剰人口問題を解決することができる唯一の地域となる可能性が高いというものだ。したがってシベリアとプリアムール地域を保有することはロシアにとって非常に重要なことであり、これを適切に解決できない場合、剰余人口は外国に流出し国家に甚大な損失を招くことになる。太平洋沿岸の港を保有していたロシアは船舶を利用して自国の輸出品を太平洋市場に輸送することができた。万一商品輸出港が他の国々の手に移った場合、ロシアはこの港を掌握した国家に経済的に従属するしかなく、ロシアの主な輸出商品は大部分が商品の原料であり、これを数千キロ離れたヨーロッパへ鉄道で輸送するとすれば競争力を喪失するほかないためであると判断したのである。³⁹

³⁸ В.Д.Песоцкий. Корейский вопрос в Приамурье. С. 101

³⁹ РГАВМФ. Ф. 418. Оп. 2. Д. 292 : Донесение Унтербергера Морскому министру Дикову, 24 марта 1908 г.

1908年ウンテルベルゲルはハバロフスクにおいて同地域への韓人の移住を防止するための対策を練るために州知事、通商産業体代表、プリアムール地域農業人の代表等が集まる協議会を設置し黄色人種問題及び韓人問題を議論することにした。彼は極東において大規模に起こっている韓人小作問題は地域農民たちの経済と勤勉性を確保するという側面からだけでなく、土地耕作の側面から見ても小作農は短期間内に利益を上げるために略奪的な方式の開墾をしているために断じて望ましくないという見解を明らかにした。例えばポシエト地域はロシア人住民は3,360人に過ぎず、この地域への韓人たちの流入が増加するにつれてロシア人の耕作地が減少していると指摘した。ラズドルニンスク地域の26,346ジェシャチーナに相当する農地を開墾している8つのロシア人部落と2つの韓人部落を調査した結果、たった2つに過ぎない韓人部落のみが農地を自力で小作農なしに開墾しており、8つのロシア人部落では土地の耕作は主に辺境の韓人小作農によって行われていた。

このため委員会では外国籍の韓人及び中国人による小作を制限するための規定の作成が早急になされるべきであるという結論を下し、個人と国営事業場における黄色人種労働者の数を縮小し国境地帯に居住するロシア国籍の韓人たちを沿海州北部地域とアムール地域へ移住させるべきであると結論づけた。⁴⁰

このような結論は日露戦争の敗戦と革命を経験していたロシアが東アジアにおいて自国の利益を守るための苦肉の策であったといえる。しかし黄禍論に基づいてロシアの排他的利益のみを追求したツァー政府の分離政策はアジアにおいてロシアの自信喪失を意味し、さらに黄色人種を敵視してヨーロッパとロシアの結合を目指すヨーロッパ連帯論の復活はロシアの独自性を制限する結果をもたらした。

5. 結び

以上みてきたようにツァー政府の東アジア政策と韓人移住者政策にはアジアに対する相反する認識が投影されていたことを知ることが出来る。これを整理すると次のようになる。

第一にクリミア戦争（1853－1856）において英仏連合軍に敗北したツァー政府はこの戦争を通してロシアとスラブ民族に対するヨーロッパの本能的な敵対心を体験し、ロシア知識人の間にヨーロッパとロシアとの関係についての反省が起こっ

⁴⁰ Пак Д.В. Корейцы в российской империи. Иркутск. 1994. С. 98-99.

た。これは1861年の農奴解放と合わせてロシアの「大改革の時代」の到来であると言う時代的狀況と軌を一にし、ロシア社会ではヨーロッパとロシアの關係をめぐる多様な談論が形成される契機を与えた。この談論の多様性は結局はスラブ主義と西欧主義という二大思想の登場によって帰結された。前者がロシアとヨーロッパの差異に注目しロシアの特殊性と個別性を強調した反面、後者はロシアをヨーロッパの一員と看做し歴史、文化的に同質性を見出し追求しようとする傾向が強かった。

スラブ主義の代表的思想家の一人であったダニレフスキーはアジアを「退歩」、ヨーロッパを「進歩」のイメージで見るヨーロッパ中心主義的見方を批判し、アジア文明に対する公正な評価を試みた。アジア文化の個別性と独自性に着目した彼は中国とインドをはじめとするアジア文明の歴史的価値をギリシャ・ローマ文明と対等に評価した。このような彼の認識はロシアに対するヨーロッパの敵対心に対抗しロシアとアジア間の連帯を模索することのできる思想的土台を提供した。このようなアジア連帯論は帝国主義列強の中で唯一ロシアが中国と同盟を締結（1896）することのできる端緒となった。同時にアジア連帯論は露領地域に移住してくる初期の韓人移住民に対する温情主義となって表われ、実際に韓人移住民に対する多様な同化政策として具体化した。

第二にロシアの思想界をスラブ主義ともに二分した西欧主義の信奉者たちはヨーロッパ帝国主義諸国の侵奪を受けていたアジア文明圏の文化的水準を低く評価することで事実上キリスト教圏諸国の帝国主義的侵略を正当化した。当時西欧主義の代表的思想家であったソロヴィヨフは退廃と後退の象徴であり発展可能性が全くない中国と国境を接するロシアは将来到来する衝突にそなえてキリスト教文明を東方に伝播しなければならない先駆者的使命を帯びているとし、ヨーロッパのキリスト教世界から孤立または対立するべきではなく、汎モンゴル主義に対抗するヨーロッパ諸国との同盟締結の必要だと力説した。これは日露戦争以後ヨーロッパ諸国との関係強化政策として表れ、英、仏、露の三国協商体制（Triple Entente）構築の思想的土台となった。このようなヨーロッパ連帯論は日露戦争以降黄禍論と人種主義と結びつきロシア地方当局による韓人移住民に対する弾圧と排斥の理論的根拠となった。

その結果、露領地域韓人に対するロシア地方当局者たちの抑圧と分離政策は、民族運動史の側面からみると、露領地域が海外抗日運動の聖地としての意味を失い以後抗日独立運動の拠点が中国に移る契機となった。そしてロシアもまたヨーロッパ帝国主義諸国との共助というヨーロッパ連帯論に執着し、第一次世界大戦というヨーロッパの戦争に自身の意思と関係なく巻き込まれ悲劇の端緒をつくることとなった。